

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	石川工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	イシカワコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	専攻科
	担当教職員名・役職	金寺 登・専攻科長指導教員
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	27
受入企業等数	25	
受入企業等名	【電子機械工学専攻】アール・ビー・コントロールズ、アイ・オー・データ機器、石川サンケン、EIZO、かがつう、金沢村田製作所、京セラ、クレスコ北陸、コマツ、コマツ産機、サンケン電気(2)、澁谷工業、中村留精密工業、西野製作所、日機装、リコーITソリューションズ【環境建設工学専攻】アール・アイ・イー、植藤造園、NTTファシリティーズ、大林組、国土開発センター、国土交通省北陸地方整備局金沢河川事務所、佐藤工業、大成ロテック、日本海コンサルタント、松浦建設、類設計室	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等において3ヶ月にわたる長期のインターンシップを行い、現実の課題に取り組む訓練を積むことによって高専で身につけた基礎学力と専門知識を高めるとともに、これまで学んだことを生かしつつ更に発展させ、課題を把握し解決する能力を身につける。また、地域社会に対処するためにも地域企業が抱える課題や社会的課題に対処できる能力を身につけ、自己の感性及び創造性を養うことを目的とする。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	10単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専攻科の必修科目である 専門科目(専門共通科目)インターンシップの中で平成18年度から3か月の長期インターンシップを実施している。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)		

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	(事前指導Ⅰ)テーマ:インターンシップ参加にあたっての心構え 社会人としてのマナー、守秘義務の遵守についての講演 受入企業に関して事前調査し、設定したインターンシップにおける成果目標や自己PRを各自発表 講師:本校コーディネータ(事前指導Ⅱ)テーマ:労働安全衛生、労働法の基礎知識について 講師:厚生労働省石川労働局
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ最終報告書、インターンシップ報告会資料の作成、インターンシップ報告会での講演・ポスター発表
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	・巡回指導:実習期間中は当該学生の特別研究指導教員が分担して月一回程度の巡回指導を行い、「インターンシップ巡回指導報告書」を作成し、専攻科長へ報告する。 ・学生から中間報告書、日誌(1ヶ月毎)を確認する。 ・実習受入先よりインターンシップ実施状況報告書を受領する。 ・学生からインターンシップ最終報告書を確認する。 ・インターンシップ報告会で成果を最終確認する。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。派遣企業等からの評価30%、巡回指導の評価10%、学生から提出される報告書の評価30%、プレゼンテーションの評価30%、各評価には評価基準を設けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間3ヶ月
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	4月初旬 第1回インターンシップガイダンス7月中旬 第2回インターンシップガイダンス 夏季休業期間中 インターンシップ先企業訪問9月4日～ インターンシップ事前指導Ⅰ9月15日 インターンシップ事前指導Ⅱ9月25日～ インターンシップ実施12月15日 インターンシップ終了12月20日 インターンシップ事後指導1月22日 インターンシップ報告会2月 評価と単位認定	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・指導教員および学生が実習受入先を事前訪問し、各学生に合わせた実習内容を策定している。 ・実習受入先にも評価、インターンシップ報告会への参加を依頼している。 ・インターンシップ実施後、アンケートを実施し、今後の計画の見直しに活用している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=18
問い合わせ先	大学等名	石川工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	076-288-8031
	メールアドレス	kyomu@ishikawa-nct.ac.jp